

ジブチの森プロジェクト

—世界一暑い国ジブチの学校と地域でつくる、サステナブルな未来—

社会課題

気候変動が直撃するジブチの農村と地域社会

気候変動の影響を強く受けるジブチは、干ばつや熱波の頻発により雨量が減少し、水不足が深刻化しています。この影響で、農作物は十分に育たず、家畜も十分な水や飼料を得られないため、成長が阻害され、場合によっては命を落とすこともあります。

また、エチオピアやソマリアなどの近隣諸国からアラブ諸国を目指す難民や、国内避難民が多く、ジブチ国内に避難をしてきた人びとが停留。地域社会全体で食料や生活支援が求められています。

こうした人口移動と気候変動の影響が重なる中、学校や地域を巻き込んだ、気候変動対策と資源管理が不可欠となっています。



人工の水場に集まる遊牧民と家畜

赤十字の解決策

子どもたちや難民・地域住民とともに、地域全体の環境改善と気候変動対応に貢献します

学校、難民・避難民コミュニティ、そして地域全体で連携し、気候変動への対応力を高めます。

学校では新たに設立する赤十字クラブによる植樹、掃除道具の整備、気候変動意識向上のセッションを通じて、子どもたちが主体的に環境の保全と改善に取り組みます。

難民・避難民コミュニティでは清掃活動の実施や家庭菜園を整備し、環境改善や食料自給を目指します。

また、アフリカ連合の「グレート・グリーン・ウォール」構想に寄与するべく、地域全体では、植樹によるグリーンベルトづくりや農業用具・調理用ストーブの整備、太陽光発電による貯水タンクの導入などを行い、生活基盤の強化と環境保全の両立を目指します。これらの取り組みは学校とコミュニティで連携して進められ、地域全体の持続可能な気候変動対策につながっています。



植林活動を実施する赤十字クラブがある学校



地域住民の声に耳を傾けるジブチ赤職員

社会的なアウトカム

緑が生み出す日陰が、人びとの暮らしを守る

酷暑下における生活環境の改善

砂地が広がり夏季には 50°Cを超えるジブチにおいて、植林によって生まれる日陰と地表温度の安定化により、子どもたちの通学や住民の日常的な移動・集いが可能となり、暑熱リスクが軽減されます。

子ども・住民の主体的な環境保全意識の醸成

学校やコミュニティでの植樹活動を通じて、子どもたちや住民が自ら環境保全に関わる機会が創出され、地域における持続的な環境管理への意識が高まります。

地域コミュニティの機能強化

日陰のある空間の創出により、住民が集い、交流できる場が生まれ、地域のつながりや協力関係の強化につながります。

国家・地域レベルの環境目標への貢献

アフリカ連合の「グレート・グリーン・ウォール」構想に基づく、ジブチ政府の 2021～2030 年植林計画(各州 10 万本、全 6 州で計 60 万本)達成に貢献します。



木陰に集まる難民・避難民コミュニティの人びと



人工の水場に集まる遊牧民と家畜

家庭菜園と地域活動による生活基盤強化

これまで家庭菜園の経験がなかった難民・避難民コミュニティに対して、作物の栽培方法や収穫・販売の技術を学ぶ研修を行い、家庭菜園の運営や作物の市内販売を通じて安定した収入を得る機会を提供しています。これにより、食料確保や家計の補助を通じた、難民・避難民の自立力向上につながります。

また、清掃活動を通じ、人びとは身近な環境を守り、変化する気候の中でも安心して暮らせる地域を育てていきます。

こうした一つひとつの行動が、地域のつながりを深め、環境を向上させるだけでなく、共に自立した生活を築く一助となり、地球環境を守る取り組みへとつながっていきます。

SDG との関係性

